



平成 25 年 1 月 11 日 第 2 卷(第 39 号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害対策本部 TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

*** 目 次

1. 現地支援活動報告
2. 現地感想文
3. 災害対策本部からのお知らせ
4. 事務所感想文



現地事務所近くの貞山堀より。
土手上の民家。水面も凍ってます。

— 現地石巻 photo —

*** 1. 現地支援活動報告

活動期間:2012年12月13日~12月15日

西村 真世 (大阪府 大阪府済生会野江病院)

昨年11月、解体作業のボランティアとして、石巻を訪問したことがあります。今回、ソーシャルワーカーとして訪問の機会をいただき、感謝の気持ちです。

しかし、機会をいただいたものの、どのようなことができるのか、と不安でした。普段、院内の業務のみで、こちらから院外に出向く、訪問するといったことは経験をしたことがありません。加えて、被災体験をしないものが、その後の状況をお聞きして失礼ではないのか、どのようにお伺いすべきなのかと自問自答していました。

活動が始まり、要フォロー世帯のクラウドの記録や訪問をする中で、介護問題や精神疾患、雇用不安など以前から存在している問題が震災をきっかけに表面化しているように感じられ、どのような問題を抱え、これからどうしていきたいのかを一緒に考えるという姿勢で臨む専門職の必要性を感じました。自らの専門性を問い直すきっかけをいただいたような気がします。また、快く訪問を迎えていただけたり、次世代にこのような辛い思いをさせないために、と震災体験を一生懸命に語ってくださる姿にこちらが力をいただいたと思います。

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

＜参加を検討している方へのメッセージ＞

貴重な経験を得ることができます。ぜひ、参加をしてみてください。

活動期間:2012年12月13日~12月15日

廣部 麻由子 (大阪府 大阪府済生会吹田病院)

2回目の参加でした。今回の活動ではソーシャルワーカーが要フォロー必要と判断したケースの自宅に訪問し、社会資源の情報提供、現在の生活状況を確認したうえで、必要であれば次のソーシャルワーカー等へ支援を引き継ぐなどの活動をおこないました。

実際に地元の方達と話をするなかで、こちらから尋ねなくても震災の体験について私たちに語り、「あなたの子供、孫まで地震、津波の怖さを伝えて」と何度も話す人は1人ではありませんでした。自分たちと同じような体験をする人を少しでも減らしたい、だからこそ震災の怖さを多くの人に知ってほしいとの思いが強くなり感じられ、私も勝手ながら大阪に戻ったら多くの人達にこの活動の経験を伝えたいといけなく、と使命感のようなものを感じるほどでした。

短い期間での活動でしたが、継続して被災地で活動されている方達に少しでも協力が出来るような活動をこれからも出来ればと思います。

＜参加を検討している方へのメッセージ＞

被災地に行き、地元の人たちや現地で支援活動をされている方達とぜひ話をしてみてください。私たちに出来ることは僅かかもしれませんが、実際に被災地に行くことだけでも大きな意味があるように感じます。

活動期間:2012年12月22日~12月25日

武山 ゆかり (東京都 豊島区医師会)

東北地方全域雪マークのクリスマスを、石巻で過ごしました。

仙台で現地責任者の久保木さんとバトンタッチ、東北福祉大学で行なわれた専門職連携に関するシンポジウムに参加した群馬・千葉のメンバー3名と、石巻へとひた走り、「仙台牛『茂洋』専門店」を訪問。数々の困難を乗り越えて復興を果たした店主を支えた私たちボランティアメンバーとして、群馬県協会小林一幸さん(前回3日間連続飲食)と共に牛タンで再会・再建を祝しました。

翌日は昨年一緒に訪問した万石浦地区の障害者宅が小林・武山とも気になっていたの
で訪問。7月末に久保木さんが訪問した時には毎回と同じように「大丈夫、ほっておいて」と
追い返された記述があったお宅ですが「障害等級変更」が進まないまま、支援の入っていない
状況を何とかしたいと5回目の訪問でした。冷え切った土間から声をかけてしばし、「上が
ってけらいん」と弱々しい声。便のついたおむつや汚れた衣服が散らばる中、お椀の御飯に
かけた納豆が乾いたまま放置された炬燵に丸くなって、すっかり痩せこけたS子ばあちゃんが
いました。去年は大きな声で障害のある息子は私が世話してるから大丈夫！と笑い飛ばし
ていたのに…。それでも気丈に「トイレは行けてる、ご飯も食べてるよ」と。

「介護保険でお風呂に入ろうよ」「医者にも来てもらおうよ」との説得にも「いらんいらん！」
ちょうど帰ってきた孫に佐瀬さんがばあちゃんに聞こえないようにアプローチ。実は「死ぬんじ
ゃねえかと心配だったけど、ばあちゃんがきかなくて…」と。5回目にしてやっと遭えたご家族
でした。S子さんが合わせたがらずにいた障害者の息子にも、繋がる事が出来ました。

連休明けの12月25日には、「連携シンポ」の講演者だった地区包括の所長が自ら介護
保険の申請書類を持って同行と、こんな偶然の重なり合いでもともかくS子さんの年越しも人手
が入りそうです。他にも、丁寧な紹介をした慢性疼痛の女性が仮設診療所の医師の時間を
かけた問診と投薬に「痛みが消えちゃったの!!!」とうれしい報告。仮設で始めた「歌声喫
茶」が、今回は在宅一人暮らしの方を集めての「歌っこ集会」として成功など、積み重ねてき
た活動の発展も実感でき、HappyなWhiteX'masになりました。



武山さんと、現地担当者（久保木さん、
依光さん）。現地事務所にて。

*** 2. 現地感想文

*** 12/25 佐瀬 学 (群馬県 有限会社さくらファミリー)

石巻での災害活動支援に参加したのが今回初めてで、現地へ来るまで、活動はどんなことがあるのだろうか？自分には、一体どんなことができるのだろうか…という、不安な気持ちでいっぱいでした。現地支援に行くことになった契機も、同じ群馬県協会でも活動されている角田病院の小林氏からのかねてからの誘いのお言葉でした。

いざ現地での活動に入ると、現地担当の依光さんも久保木さんも丁寧に業務を教えてくださいましたが、ケース介入はと言えば活動期間でたった 10 件のケースにしか介入できず、正直なところ目まぐるしく時間が過ぎていってしまい、何か援助が出来たかといえば、何も出来ずに終わってしまったように感じています。行く前に現地での制度等をもっともっと勉強しておかなければいけない。自分が如何にして、井の中の蛙であったかを痛感致しました。

1 日目に参加させて頂きました、石巻専修大での仮設自治連合の懇談会では、仮設ならではの問題や課題も把握でき、災害復興住宅の今後の展開も知ることができました。まだまだ先の長い、見通しの立たない状態で、住民の皆さまは不安を抱えているということ、仮設住宅特有の問題も沢山あることをも痛感したところです。ただ、自分たちは地元住民や行政等から仮設住宅への支援が終結されている現状では、何も支援ができないという点への歯痒さも感じながら、しかし地元住民主導へ少しずつ課題を抱えながらも前向きになってきていることも自分なりに感じています。

2 日目に参加させて頂きました、東北福祉大で被災地における専門職連携のシンポジウムでも、貴重な講演を聞く体験ができました。地元石巻市渡波地域包括支援センター所長の高橋さんがシンポジストとして参加され、自分たちの活動に対し胸の痛くなる、「現地専門職」と「外部支援専門職」の違いで、被災地が故に感じている「おもい」を聴講して、率直に感じたことは、自分の地域でも大災害が発生した時、外部支援専門職が各方面から来て頂いても高橋さんと同じ気持ちになるかもしれないと感じました。「連携」と「たらい回し」。深く考えさせられました。

3 日目は、東京都協会の武山さんと小林さんとのケース訪問に行き、武山さんの声掛けや姿勢を見て学ぶことがたくさんあり、「ソーシャルワーカー」としての活動を非常に勉強させて頂きました。声掛けや姿勢、視線、仕草、いかに自分の力量が不足しているのかを強く感じました。関わったケースでは、武山さんと小林さんが“1 年越し”の介入で危機的な状況に陥ってしまっていたケースが、大きく前進した援助を目の当たりにし、感動も覚えました。

本当にあっという間の期間でしたが、しかし現地石巻へ来てみないとわからないこと、感じられなかったことが山のようにありました。そして、この活動へもっと参加したい、また参加したいという風に感じました。

最後になりますが、現地担当者の依光さん、久保木さん短い期間でありましたが、何もできない自分へ寛大なお心でご指導ご教授頂きまして、本当にありがとうございました。年度中には、ぜひもう一度来たいです。

群馬県協会の若い力を小林さんと一緒に誘って、必ず戻ってきます。お邪魔かもしれませんが…(笑)

(活動期間:12月21日~12月23日)

*** 12/25 小林 一幸 (群馬県 角田病院)

昨年12月に活動に参加させていただいてから1年が経過し、今回で3回目の参加となりました。今年度は全国大会を群馬県で行ったこともあり、もっと早い段階での支援参加を予定していましたが、こんな時期になってしまいました。(すみません・・・)

在宅の方のケース訪問をメインにしなが、仮設住宅自治連合の会議や、シンポジウムへの参加もすることが出来たことは、大きな経験となりました。

支援への参加は、しっかりと現状の現場や活動内容を把握し、支援活動参加に多くの方に参加してほしいとの思いがありました。

さらに昨年関わらせて頂いたケースの方と再会することができ、さらにタイミングよく介入できたことは、本当に感無量でした。

今回の参加で改めて活動の継続必要性を感じるとともに、地域の中で私たち専門職がどのように関わっていくのか、考えていかななくてはと思いました。

また来ます・・・必ず来ます・・・。仲間そして地域と繋がっていくために・・・。

(活動期間:12月21日～12月24日)

*** 12/25 五十嵐 晴美 (千葉県 柏東口地域包括支援センター)

2日間という短い時間で申し訳ないです。

被災地の現状を見て、長い支援活動が必要になることを改めて実感しました。また、この状況で各専門職が本当の意味で『連携』することの大切さと難しさも感じました。

ソーシャルワーカーとして活動する中で、被災者のお役に立てるように支援することに目が向いてしまいましたが、他の職種の方々との調整も大事な仕事だと分かったことは、私にとってとても大きなことでした。2日間ありがとうございました。

(活動期間:12月22日～12月23日)

*** 12/28 久保木 美由紀 (現地担当)

昨日、石巻市ささえあい総括センター所長・北川氏と意見交換会が行われました。

社協の役割、取組、現状石巻市が抱えている問題を共有し、それについての対策案を伺い、活発な意見が交わされました。

いろいろなところで活力が生まれています。

*** 12/29 中尾 好子 (東京都 東京カリタスの家)

1.初めに 過去2回、東京都協会の研修で石巻に伺い、映像では計り知れない現実に向きあって、戸惑うばかりでした。その後も都協会や日本協会の研修に参加し、今回決心して現地での活動に参加したい、と申し込みました。現地職員の久保木様、依光様そして東京と石巻をとんぼ返りされた笹岡様にも、本当にお世話になりました。感謝です。

2.体験した内容

初日、依光様から懇切丁寧なオリエンテーションを受けました。この一つだけでも、現地に足を運んだ甲斐があると思いました。石巻に住む方々の課題を知り、その課題に医療と福祉→住居や法律等も含め、専門家の人々が、支援してゆく仕組みが実践され、市からの委託を受けるようになったこと。日本協会もチームの一員である“石巻医療圏 健康・生活復興協議会”で働いている方々の熱い思いに、先ず感動しました。2日目の午後、宮城県社協から石巻市社協に出向されている北川様が来所されました。災害関連の事業としては、仮設住宅に職員が住み、訪問支援員と共にコミュニティ支援を行っている。＝見守っている。そして、みなし仮設にも対しても、見守りや家賃補助が始まることでした。この会合にオブザーバーとして参加させていただきことも大変な勉強になりました。社協の使命と具体的な事業について改めて知ることができました日本協会が関わっている方への電話訪問には、緊張感がありました。これもとても良い勉強でした。

短期間でしたが、濃密な体験をさせていただいた3日間でした。感謝！

(活動期間:12月22日～12月23日)



RCI (石巻医療圏 健康・生活復興協議会)

企画の「歌って広場」の様子

— 現地石巻 photo —

***3. 災害対策本部からのお知らせ

【1.協力員募集】

***現 地

現在、1日あたり上限2~3名で募集しております。

中3日以上・なるべく平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害対策本部までお気軽にご相談ください。

***1月はまだ空いております。ご都合の付く方、ご協力をお待ちしております！

***事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1~2ヶ月に1回でも構いません。ご協力をお願い致します。

【2.災害対策本部会議】

次回は、25年1月26日(土)18:00~ 協会事務所にて開催いたします。

【3.書籍販売】

『東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン 1』の販売を行っています。

発災から昨年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録をまとめました。ぜひご覧になってください。尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。



***注文用紙はホームページからダウンロードできます。

http://www.jaswhs.or.jp/date/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

【4.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

*** URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。



*** URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

【6.現地・事務所職員募集】

災害対策本部では現地・事務所職員を随時募集しています。
災害支援に関心のある方からのご応募をお待ちしております。
または周りでご興味のある方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。

***①現地常駐者(短期契約職員)

- 就業場所:宮城県石巻市大街道北
- 就業時間:9~17時
※業務の関係で残業あり。
- 休日:土曜・日曜・祝日・年末年始
- 基本給 250,000 円/月
- 通勤費実費支給
- 社会保険加入
- 医療ソーシャルワーカー業務経験必須
- 長期の方優遇。月単位でも応相談。

***②災害対策本部事務所担当(パート職員)

- 就業場所:協会事務局内
- 就業時間:週3日程度 10~17時
※業務の関係で残業あり。
※頻度・時間は応相談。
- 休日:土曜・日曜・祝日・年末年始
- 時給 900 円~ 通勤費は実費支給
- 経験不問。医療ソーシャルワーカー業務経験者優遇

ご応募の方は下記宛に履歴書をお送りください。面接にて決定させていただきます。
または災害対策本部までお気軽にお問い合わせください。

***お問い合わせ

住所: 〒162-0065 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル
電話: 03-5366-1057
担当: 笹岡・中川

*** 4. 事務所感想文

*** 1/9 金子 小夜子 (災害対策本部事務所)

明けましておめでとうございます。
活動に参加して下さる皆様がスムーズに現地に入れるように、対応したいと思います。
本年もよろしくお願ひ致します。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 25 年 1 月 11 日 第 2 卷 39 号
作 成 群馬県医療ソーシャルワーカー協会



上毛カルタ：㊦かし(昔)を語る 多胡の古碑

(群馬県高崎市吉井町)